

夕張市議会だより

2015年8月1日

第30号

議会運営委員会

平成27年第2回定例市議会

第2回定例市議会は、平成27年6月4日から12日までの9日間を会期として開催されました。

付議されたものは、議案10件・報告10件・意見書案4件の審議を行いすべて原案通り可決いたしました。

議

案

- 夕張市財政再生計画の変更について
- 夕張市国民健康保険条例の一部改正について
- 夕張市介護保険条例の一部改正について
- 夕張市共同浴場設置条例の一部改正について
- 夕張市公設地方卸売市場条例の一部改正について
- 空知教育センター組合規約の変更について
- 工事請負契約の締結について
- 財産の取得について（二件）
- 平成27年度一般会計補正

予算

報

告

- 平成26年度夕張市一般会計繰越明許費繰越額の報告について
- 平成26年度夕張市介護保険事業会計繰越明許費繰越額の報告について
- 平成26年度夕張市後期高齢者医療事業会計繰越明許費繰越額の報告について
- 専決処分報告について
- 定期監査の結果について（二件）
- 例月現金出納検査の結果について（平成26年度2月～平成27年度4月分）

意見書

- 農林水産業の輸出促進に向けた施策の拡充を求める意見書
- 地方単独事業に係る国民健康保険の減額調整措置の見直しを求める意見書
- 北海道教育委員会「新たな高校教育に関する指針」の見直しと地域や子どもの実態に応じた高校づくりの実現を求める意見書
- 地方財政の充実・強化を求める意見書

夕張市議会の果たすべき役割を念頭に

― 市民・行政・議会一体となつて ―

夕張市議会議長

厚谷 司



ても「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を策定し、今後目指すべき将来の方向をまとめなければなりません。

本年4月に執行された夕張市議会議員選挙は、市政施行後初の無投票となりましたが、議員9名による新たな体制で議会もスタートし、早いもので3か月が経過しました。

夕張市も法の下での財政再建を開始してから9年目を迎えました。あらためてこの間の市民の皆様の財政再生・地域の再生に向けたご協力に市議会を代表して衷心より感謝申し上げます。

さて、平成27年度は「まち・ひと・しごと創生法」の定めに基づき、夕張市におい

また、地方版総合戦略の策定に当たっては「議会と執行部が車の両輪となつて推進することが重要であることから、各地方公共団体の議会においても地方版総合戦略の策定段階においても、十分な審議を行うことが重要」とされており、機関としての市議会においても、その役割を最大限に発揮しなければならぬものと考えております。また同時にこのことは市民の皆様が愛する夕張を自らの手でその将来像を明らかにしていくことであるとも言えるものです。

夕張市議会はその先頭に立ち、市民の皆様のご期待に添える活動を進めてまいります。

夕張市議会では議会の活動を多くの市民の皆様にお伝えするために、「議会だより」を発行しています。また、市役所本庁・南支所及びふれあいサロンにも配布しております。

ご意見・ご感想をお寄せください

夕張市議会事務局
本町4丁目市役所内
電話 4頁に記載

編集委員

勝子 二人 哉夫
桂修 靖和 孝
葉谷 山田 川島
千熊 大本 今君
委員長 員員
委員 員員
副委員長 委員

一般質問の

内容と答弁

大山修二議員質問

コンパクトシティ

構想について



■質問

(1) 市営住宅再編事業について

《質問趣旨》

○市営住宅等長寿命化計画で、平成27年度までの1期計画(100戸建設予定)の状況と、28年度からの2期計画(50戸建設予定)について。

○新たな都市拠点と位置付けられている清水沢地区で、今年度宮前町から南清水沢へ住替え誘導が実施されたが、この地区に、現在も様々な事情で入居されている方がいますが、今後これらの皆さん

んに対する住替え誘導等について。

○新たな都市拠点として位置付けられている清水沢地区の土地利用の具体的なゾーニングの策定時期について。

■答弁

○1期計画では90戸建設、さらに、北海道の支援事業で道営住宅が57戸建設され目に見える形で再編事業が進行している状況にある。

2期計画については、国・北海道との三者協議で合意しているが、今年度、計画の見直し年度であることから、今後の人口減少等の状況を踏まえ全体計画を見直していきたい。

○宮前町の住替え誘導地域に現在も入居されている方については、他団地への住替え希望を伺いながら移転誘導を進めていきたい。

○清水沢地区の具体的なゾーニングについては、想定される施設等を配置した平面図等を今年度中に策定し市民の皆さんにお示ししたい。

高間澄子議員質問

夕張市の空き家対策

について



■質問

(1) これまでの空き家対策の進捗状況について

(2) 今後の課題と対策について

《質問趣旨》

空き家の実態について空き家個数全体と解体されたもののまた、これまでの取り組みの成果として市が寄付をうけて解体したものの補助の状況と今後この取組の考え方はあるのか。更に夕張市不動産情報ホームページの活用状況はどのようになっているのか伺います。

「まちづくりマスタープラン」に基づくコンパクトシティに向けた取組の課題はどのようなものがあるのか。

■答弁

平成23年度から落雪や倒壊の危険性がある住宅を調査し46件が解体され、現在危険がある住宅は115件あると認識している。平成24年度に特例的に「危険廃屋、空き家緊急対策事業」で建物8棟の除却を実施し個人の家の解体に1件20万円を上限とした「夕張市老朽建築物等除却費補助金」の交付を平成24年度から3年間限定で実施し22件437万4千円となる。

また、「地域住宅のあり方検討委員会」において市内不動産情報の充実を平成24年度から実施し、アパートの空き家状況、中古住宅物件情報、分譲地の購入相談も増えており今後も情報提供に努め、道路、橋梁、上下水道設備、交通体系など総合的に進めて行くことが重要と考えている。

本田靖人議員質問

子育て環境の充実に

ついて

■質問

(1) 夕張市における認可保育所の保育料基準額につ

いて

(2) 四月から子ども・子育て支援新制度がスタートしたが、今年度の保育料について何らかの見直しを行ったのか

(3) 近隣の自治体と比べた際の夕張市の保育料の位置付けについて

(4) 今後の保育料の見直しの予定について



《質問趣旨》

急激な少子化が進む夕張において、子育て世代に対する支援策を講じる必要があると考える。

■答弁

(1) 利用者負担に配慮し、階層区分を15階層に細分化して一定の負担軽減を図っている。

(2) 今年度から国の基準が改正となったことにより、一部の階層区分で保育料が上がったが、負担の増

える階層については、9月まで据え置く経過措置をとっている。

(3) 階層区分によっては、近隣町村よりも安い場合もあるが、高所得階層については高額になっている。

(4) 上限額の引き下げ等の見直し・改正を早急に行うべく国や道と協議を重ねていきたい。

小林尚文議員質問

夕張市の医療体制について

質問

(1) 市立診療所の次期指定制管理について

(2) 民間医療機関の閉院に伴う影響と今後の対策について



答弁

(1) 平成29年からの指定管理の公募にあたり、8月末に

募集要項等を決定、10月迄募集期間とし、12月定例会での議決と考える。初期救急医療体制の充実を要件に盛り込み、中核医療機関と考え市内医療機関と連携を強化したい。

(2) 若菜地区の通院患者はもとより、予防接種等の影響を最小限にとどめるため市立診療所に対し日曜当番等を要請、対応する。患者の輸送等は連合町内会と協議し、受診動向等、1ヶ月程度見極め判断する。

三者協議について

質問

(1) 進捗状況と今後の進め方について

(2) これまでの課題と新たな取り組みへの対応について

答弁

(1) 平成24年度は現状を理解してもらうための視察、優先17項目につき協議、計画変更へ、25年度は市が目指すコンパクトシティ構想の実現のため重点課題18項目を協議し、26年度は住宅再編事業2期工事等コンパクトシティの構築に不可欠な事業の具体的協議をする。



今川和哉議員質問

空き家対策特別措置法に基づく取り組みについて

(2) 昨年まで懸案事項を共有し、個別の事業ベースで協議し計画変更の円滑化に効果があった。今後も同様の協議を進める一方、再生計画を推進していくうえで、大きな枠組みの議論が必要と認識している。



質問

(1) 空き家対策特別措置法に基づく行政執行体制の

構築並びに空き家対策の展望について

答弁

当市では再生計画の枠を超えた職員を確保することができないのが実態であり、空き家対策に特化した行政組織の再編というのは現状では困難であるため、現有の職員数の中で対応を継続しながら可能な範囲において空き家対策を講じていくつもりである。対策計画の策定にあたっては、まず空き家廃屋の実態を正確に把握することが先決と考えており、資料等の整理を優先的にを行い、他の市町村の策定状況などを参考にしながら取り組んでいきたい。

ゴミ処理体制について

質問

(1) 埋め立て施設の将来的な見通しとその対策について

(2) 今後のごみ処理対策について

答弁

処分場は昭和62年より埋立てを開始しているが、人口減や削減政策の効果によって現在も埋立て残量があり、測量調査によると平成38年度まで余裕が見込まれる。

処分場新設を検討していく必要があるが、人口規模やコスト等をかんがみ、新しい焼却施設を市が建設することは現実的ではないと考えている。

平成32年度時点でのデータを基に埋立て処分場新設の方向性を決定する予定である。

熊谷桂子議員質問

市民が安心できる住環境の整備について



質問

(1) 高齢者が安心できる住環境(施設も含む)の整備について、現状と課題、今後の政策は

(2) 障がい者が安心できる住環境の整備について、現状と課題、今後の政策は

答弁

(1) 現在、住環境に係るサービスは、平成27年度整備予

定の特定施設入居者生活介護1ヶ所を含め5ヶ所、介護保険以外のサービスでは、7種類13ヶ所の施設、住宅があり、一定程度、市民の住環境ニーズには応えているところ。

在宅と施設の中間的役割を担う居住系サービスを整えており、市民の生活に寄り添ったサービスを確保していくことが重要と認識しており、今後も高齢者のみならず市民がいつまでも住み続けられるよう取り組んでいく。

(2) 障がいのある方々が、地域において安心した生活を送るためには、まず生活基盤の確保が重要。特にグループホームの整備促進は、その方策の一つと考える。

現在市内には2事業者が設置運営するグループホームが合わせて19定員分整備されているところ。将来に向けて利用ニーズは高まっていくものと見込まれることから平成27年3月に策定した「第2次夕張市障がい者計画・第4期障がい福祉計画」においても整備促進を掲げたところであり、計

画の着実な推進を図ってきたい。

君島孝夫議員質問

幼保一元化について



■質問
(1) 認定こども園の必要性と検討状況について

(2) 幼保一元化に向けた協議の場の設置について

■答弁

(1) 幼稚園や保育園の充実が求められている。幼稚園児が年々減少する傾向が見られ、市内には幼稚園1・保育園3・無許可保育園1・あるがこの体制が何時まで維持できるのかという課題がある。市内において人口の減少や高齢化で人材の確保が厳しい状態が続くなか、現状の子供の出生率も0歳から2歳までのそれぞれの年代においても30

名を割る状況であることや、就学前の児童の子育て環境の充実のために将来的には認定こども園の移行が重要であると考えている。5年以内をめどに民間による認定こども園を含めた施設の開設に向け十分な議論を重ねていく。

(2) 担当者レベルではあるが5月から関係課による会議を開催している。その中で保護者・子ども達またはいま現在勤務されている職員に不安を与えないよう対応していく。具体的内容の検討を含め近く庁内で横断的協議の場を設け保育協会とも一緒に議論を深めてまいりたい。



千葉 勝議員質問

夕張市の子育て環境の充実について

■質問
(1) 夕張高校の今後のあり方について

(2) 地元高校に通う保護者の負担軽減策について



■答弁

(1) 夕張高校の今後のあり方ですが、道教委から「地域キャンパス校の検討を進めてほしい」との要請を受けている。一人一人に寄り添った教育課程にたつた魅力ある高校づくりが大切であるので、高校対策委員会を中心としながら年内に地元としての考え方を整理していきたい。

(2) 子育て世代にも就学前の子どもを持つ方から成人前の子どもを持つ世代がいる中で、子育てに手がかかり中々共働きなどが困難である就学前の家庭に重点を置いて軽減策を進めてきた。そのために、就学前の医療費の無料

化を実施し、今後は、保育料の軽減の検討を行っていきたい。また、小学生には、総合学習への補助や通学定期券購入費の全額補助を実施している中で、高校生までへの軽減策は、財源が伴うもので現状では非常に厳しく、現時点では難しく、まず、魅力ある高校づくりを行政としても取り組んでいく中で、地元高校を支えていくことが重要である。

議会行事報告抜粋

●北海道市議会議長会道央支部協議会（5月19日）

●北海道市議会議長会総会及び研修会（5月28日）

議会事務局の電話番号は

52-3172

です。なお、事務局職員が不在となる場合がありますが、市役所代表電話

52-3131

までお願いいたします。